

若い女性を対象にした食物アレルギーに関する調査

○矢後文子 降旗明子 神山恵美子 安川知穂 (大妻女大)

〔目的〕

近年、薬による副作用が問題視され、食物による身体への自然な効力が見直されているが、時にはその食物によっても、身体は障害を受けることがある。そのひとつが、本来有用なはずの免疫反応が自分自身を攻撃するアレルギーであり、原因物質が食物である場合を食物アレルギーと呼ぶ。今回、若い女性の中にどのくらい食物によるアレルギー様反応を経験した者がいるか調査した。

〔方法〕

平成8年6月上旬、大妻女子大学家政学部および短期大学部の学生ら328名に、食物アレルギーに関する原因食物、症状、経過などについてアンケートを行った。

〔結果〕

アンケートは311名から回収し、回収率は92.8%であった。食物摂取後何らかの違和感を感じたことのある人は83名(26.7%)で、原因食品としては、果物、魚介類、鶏卵、獣鳥肉類、穀類などが多かった。果物の中では、パイナップル、キウイフルーツ、メロンなどで、症状は、口唇周辺や口腔内の搔痒感などであった。魚介類、鶏卵、獣鳥肉類、穀類などによる症状は、皮膚症状が30分から数時間以内に現れることが多かった。また、両親が共にアレルギーであると答えた者は、片親がアレルギーである者より、食物によるアレルギー様反応を経験した者が多かった。